

令和6年  
2024年

12月3日  
火曜日

第11608号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



CAB協会、「いきなりステーキ」とコラボイベントを開催……P6

## 注目のヘッドライン

### 10月の牛肉輸出は前年比3・3%減、 最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると10月の国産牛肉輸出量は809tと、前年同月を下回り、前月比でも12・2%の減少となった。

…詳細はP2

### 【加工品仕向肉量・10月】国産、輸入の 合計数量は3万7405 tで8・5%増

…詳細はP3

- ▶ 10月の牛肉輸出は前年比3・3%減、最大輸出先は台湾……………P2
- ▶ 農畜産業振興機構、第3業務対象年間の牛マルキンの参加申込受付開始……………P2
- ▶ [加工品仕向肉量・10月]国産、輸入の合計数量は3万7405tで8・5%増……………P3
- ▶ 米国ノースダコタ州で鳥フル、家禽肉等の輸入一時停止……………P3
- ▶ 9月末全国牛飼養頭数計384万頭で減少一  
個体識別記録……………P4
- ▶ 家畜改良事業団が2024年検定済種雄牛生産者感謝状贈呈式を開催……………P4～5
- ▶ 【12月の相場見通し】③……………P5
- ▶ マルイチ産商が共進会および見本市を開催、県知事賞は大国屋が購買……………P6
- ▶ CAB協会「いきなりステーキ」とのコラボイベント開催……………P6
- ▶ 畜産物輸出促進協、食肉加工品輸出協が“日本の食品”輸出EXPO出展……………P7
- ▶ 京都で食育イベント、全肉連と京都府肉連が競馬場と農林フェスで消費PR……………P8
- ▶ 神奈川県業務卸が臨時総会、HACCPシステム検査学ぶ……………P8
- ▶ 日本食鳥協会関西支部、大阪食鳥会館で講習会、情報交換会開く……………P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]2日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]2日…P11



Nipponham Group  
たんぱく質を、もっと自由に。

## 食肉施設の設計・施工・コンサルタント

— 食肉業界をリードする —



〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5  
☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

## 10月の牛肉輸出は前年比3・3%減、最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると10月の国産牛肉輸出货量は809t(前年同月比3・3%減)と、前年同月を下回り、前月比でも12・2%の減少となった。

輸出先国は合計35カ国・地域で、国別にみると台湾が最も多く163t。次いで、米国、香港、タイ、シンガポール、カンボジア、マレーシア、マカオと続く。表記以外のその他の国はオランダ、アラブ首長国連邦、

ドイツ、イタリア、カナダ、ベトナム、ベルギーなど。

10月分輸出額は50億9742万円(7・8%減)となり、キロ当たりの輸出単価は6300円。輸出内訳は冷蔵403t(11・2%増)、冷凍406t(14・4%減)。金額ベースは冷蔵が前年比13・4%増、冷凍が25・2%減。

2024年10月の牛肉輸出状況

単位:kg、円、%

	香港	米国	カナダ	カンボジア	マカオ	シンガポール	タイ	台湾	その他国	合計
2023年累計	1,520,136	1,142,401	1,226,852	2,359,485	142,157	544,264	474,497	1,691,904	1,684,614	8,420,732
前年比	111.3%	106.5%	107.1%	115.0%	155.5%	91.5%	82.2%	135.8%	110.6%	113.0%
2023年10月	162,506	65,195	72,791	244,251	18,661	50,939	32,041	163,936	163,461	836,708
11月	176,753	58,017	64,832	231,750	3,088	44,797	41,438	180,795	163,786	842,831
12月	144,900	143,194	149,373	249,432	10,823	60,961	62,235	216,277	164,380	909,365
2024年1月	93,924	129,025	135,169	177,502	20,912	36,552	53,969	108,089	111,321	602,787
2月	106,221	195,190	204,080	279,478	6,407	40,718	20,912	114,096	126,697	694,529
3月	109,950	105,922	115,113	211,225	8,851	43,304	42,641	180,855	174,134	771,152
4月	119,742	102,543	108,144	203,350	15,243	39,566	63,942	210,433	126,716	778,992
5月	95,420	90,606	98,169	123,647	15,103	41,019	26,046	137,164	114,502	552,901
6月	101,840	104,383	111,433	174,847	15,164	43,356	64,800	184,507	187,379	771,893
7月	126,184	84,567	94,339	147,451	10,297	45,565	44,538	186,096	186,915	747,853
8月	96,559	114,269	119,630	178,986	21,576	41,357	84,125	201,243	140,972	764,818
9月	148,383	159,276	5,669	82,831	14,282	41,270	100,588	180,022	188,821	921,142
10月	134,727	139,379	13,220	34,092	25,847	45,898	64,294	162,626	189,009	809,092
前年同月比	82.9%	213.8%	18.2%	14.0%	138.5%	90.1%	200.7%	99.2%	115.6%	96.7%
kg単価(円)	5,197	6,952	8,729	7,087	7,181	6,540	5,294	5,297	7,320	6,300
2024年累計	1,132,950	1,225,160	1,004,966	1,613,409	153,682	418,605	565,855	1,665,131	1,546,466	7,415,159
前年同期比	252.2%	479.6%	362.8%	255.1%	338.9%	301.9%	589.8%	348.9%	114.0%	111.2%

## 農畜産業振興機構、第3業務対象年間の牛マルキンの参加申込受付開始

農畜産業振興機構は2日、肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)第3業務対象年間への参加希望者に向けた参加申し込みの受け付けを開始した。

令和7年4月1日から開始する第3業務対象年間(令和7年度から9年度)で、交付金の交付を受けようとする肉用牛の肥育生産者は、令和7年2月末日までに必要書類を提出し、機構の審査を受ける必要がある。

参加希望者のうち、継続での希望者は飼養地の所在する都道府県の積立金管理者、または事務委託先の案内を待ち、初めて参加する生産者は、制度の概要および要綱を一読の上、問い合わせ先(写真)まで要件審査申請書の請求が必要となる。

### お問い合わせ先一覧(各都道府県の積立金管理者)

団体名	連絡先	団体名	連絡先
(一社)北海道酪農畜産協会	011-209-8556	(一社)滋賀県畜産振興協会	0748-33-4345
(一社)青森県畜産協会	017-723-2775	(公社)京都府畜産振興協会	075-681-4280
(一社)岩手県畜産協会	019-694-1300	(一社)大阪府畜産会	06-6941-1351
(一社)宮城県畜産協会	022-298-8475	(公社)兵庫県畜産協会	078-381-9357
(公社)秋田県農業公社	018-893-6213	(一社)奈良県畜産会	0744-29-4004
(公社)山形県畜産協会	023-665-1158	(公社)畜産協会わかやま	073-426-8133
(公社)福島県畜産振興協会	024-573-0514	(公社)鳥取県畜産推進機構	0857-21-2756
(公社)茨城県畜産協会	029-232-2277	(公社)島根県畜産振興協会	0852-31-3609
(公社)栃木県畜産協会	028-664-3631	(一社)岡山県畜産協会	086-222-8575
(公社)群馬県畜産協会	027-220-2371	(一社)広島県畜産協会	082-962-1872
(一社)埼玉県畜産会	048-536-5281	(公社)山口県畜産振興協会	083-973-2725
(公社)千葉県畜産協会	043-242-6333	(公社)徳島県畜産協会	088-634-2680
(公財)東京都農林水産振興財団	042-528-1357	(公社)香川県畜産協会	087-825-0284
(一社)神奈川県畜産会	045-761-4191	(公社)愛媛県畜産協会	089-948-5891
(公社)山梨県畜産協会	055-222-4004	(一社)高知県肉用牛生産者安定基金協会	088-892-4830
(一社)長野県畜産会	026-228-8809	(公社)福岡県畜産協会	092-641-8723
(公社)静岡県畜産協会	054-274-0220	(公社)佐賀県畜産協会	0952-24-7121
(公社)新潟県畜産協会	025-234-6781	(一社)長崎県畜産協会	095-843-8825
(公社)富山県畜産振興協会	076-451-2480	(公社)熊本県畜産協会	096-369-7887
(公社)石川県畜産協会	076-287-3635	(公社)大分県畜産協会	097-545-6594
(一社)福井県畜産協会	0776-27-8228	(公社)宮崎県畜産協会	0985-41-9305
(一社)岐阜県畜産協会	058-278-2420	(公社)鹿児島県畜産協会	099-258-5662
(公社)愛知県畜産協会	052-951-7477	(公財)沖縄県畜産振興公社	098-855-1129
(一社)三重県畜産協会	059-213-7513		

## 【加工品仕向肉量・10月】 国産、輸入の合計数量は3万7405 tで8・5%増

日本ハム・ソーセージ工業協同組合がまとめた10

月の加工品仕向肉量によると、国産と輸入を合わせた合計数量は3万7405t(前年同月比8・5%増)と前年同月を上回った。このうち国内物が1万61t(6・4%増)と増加し、輸入物も2万7344t(9・3%増)と増加している。24年度累計は34万5741t(2・6%増)。このうち国内物は9万3958t(4・4%増)、輸入物は25万1784t(2・0%増)で推移している。

畜種別にみると、豚肉は国内物が6050t(5・6%増)、輸入物が2万5120t(11・3%増)、合計3万1169t(10・2%増)で前年を上回った。また、鶏肉は国内物が3846t(7・4%増)と増加し、輸入物は984t(17・2%減)となり、合計では4829t(1・3%増)と前年を上回った。成牛肉は1368t(1・6%減)で、国内物が160t(6・3%増)、輸入物が1207t(2・5%減)となった。

シーズンドボークなどを含む豚肉調製品は9565t(6・6%減)となっている。

2024年10月分の食肉加工品仕向肉量

(単位：トン、%)

区分		仕向肉量	対前年同月比	2024年累計	対前年同期比
豚 肉	国内物	6,049.6	105.6	55,715.2	104.5
	輸入物	25,119.1	111.3	231,864.7	103.3
	合 計	31,168.7	110.2	287,579.9	103.5
成牛肉	国内物	160.2	106.3	1,229.1	106.0
	輸入物	1,207.4	97.5	10,537.1	94.4
	合 計	1,367.6	98.4	11,766.2	95.5
子牛肉	国内物	0.1	0.0	0.2	0.0
	輸入物	0.7	87.5	7.9	100.0
	合 計	0.8	100.0	8.1	102.5
馬 肉	国内物	5.4	163.6	32.9	35.3
	輸入物	6.8	91.9	54.6	60.9
	合 計	12.2	114.0	87.5	47.8
綿羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	25.8	126.5	220.8	111.9
	合 計	25.8	125.9	220.8	111.9
山羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.4	100.0	3.2	110.3
	合 計	0.4	100.0	3.2	110.3
鶏 肉	国内物	3,845.6	107.4	36,980.2	104.4
	輸入物	983.8	82.8	9,095.4	83.4
	合 計	4,829.4	101.3	46,075.6	99.4
合 計	国内物	10,060.9	106.4	93,957.6	104.4
	輸入物	27,344.0	109.3	251,783.7	102.0
	合 計	37,404.9	108.5	345,741.3	102.6
うさぎ肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	0.0	0.0
	合 計	0.0	0.0	0.0	0.0
魚 肉	国内物	1.5	107.1	14.7	96.1
	輸入物	17.2	102.4	121.7	96.8
	合 計	18.7	102.7	136.4	96.7
【参考】					
豚肉調製品		9,564.7	93.4	92,684.2	94.9
うちシーズンドボーク		9,562.0	93.4	92,602.3	94.9

注) 1. 仕向肉量は食肉加工工場より報告された数量である。  
資料：日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」  
(公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

## 米国ノースダコタ州で鳥フル、家禽肉等の輸入一時停止

農水省動物検疫所は11月27日、米国ノースダコタ州マクヘンリー郡の家禽飼養施設で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、同郡から輸

出される生きた家禽、家禽肉等については、輸入を一時停止した。

## 9月末全国牛飼養頭数計 384万頭で減少—個体識別記録

家畜改良センターが発表した9月末の全国牛個体識別記録によると、全国の飼養頭数は384万1182頭(前年同月比2.4%減)と減り、前月比でも1万70頭減少した。

品種別にみると、黒毛和種は計176万6405頭(1.2%減)と前年を下回り、前月比でも7532頭の減少。雄(去勢)は63万7244頭(0.3%減)、雌は112万9161頭(1.7%減)となった。また、交雑種は計55万220頭(0.9%減)と前年を下回り、前月に

比べると921頭増。雄は28万2900頭(1.0%減)、雌は26万7320頭(0.7%減)となった。ホルスタイン種は計146万8228頭(3.8%減)となり、前月からは3208頭減。雄は17万9024頭(13.4%減)と減少が続き、雌も128万9204頭(2.3%減)で前年割れとなった。また、褐毛和種は計2万2265頭(1.9%減)、肉専用種は計5190頭(56.5%減)で減少となった。

全国の牛の種別・性別の飼養頭数(各月末時点)

年月	ホルスタイン種			交雑種(肉専用種×乳用種)			黒毛和種			褐毛和種			日本短角種	肉専用種	その他	総計
	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計				
令和5年9月	206,696	1,319,439	1,526,135	285,892	269,219	555,111	639,395	1,148,664	1,788,059	6,868	15,837	22,705	6,813	11,923	20	3,933,914
10月	203,764	1,311,908	1,515,672	286,257	270,393	556,650	640,037	1,148,533	1,788,570	6,841	15,776	22,617	6,220	11,046	17	3,923,760
11月	201,971	1,307,685	1,509,656	285,465	269,614	555,079	629,700	1,140,420	1,770,120	6,783	15,685	22,468	6,332	10,315	17	3,896,883
12月	200,852	1,306,939	1,507,791	286,460	271,070	557,530	629,730	1,140,313	1,770,043	6,721	15,678	22,399	6,217	9,539	18	3,896,363
令和6年1月	198,711	1,305,655	1,504,366	287,428	271,628	559,056	630,079	1,139,576	1,769,655	6,740	15,778	22,518	6,193	8,942	18	3,893,523
2月	196,052	1,303,241	1,499,293	286,910	272,483	559,393	634,168	1,140,958	1,775,126	6,777	15,778	22,555	6,143	8,272	18	3,893,505
3月	192,489	1,301,217	1,493,706	285,634	271,636	557,270	636,131	1,142,302	1,778,433	6,707	15,638	22,345	6,044	7,633	18	3,888,112
4月	187,878	1,296,548	1,484,426	284,012	269,840	553,852	636,054	1,140,618	1,776,672	6,841	15,706	22,547	6,068	6,969	18	3,873,134
5月	183,446	1,290,553	1,473,999	282,916	267,544	550,460	638,491	1,140,558	1,779,049	6,827	15,679	22,506	6,458	6,290	18	3,861,305
6月	179,256	1,289,891	1,469,147	280,725	265,438	546,163	638,079	1,137,564	1,775,643	6,766	15,597	22,363	6,523	5,689	18	3,848,112
7月	177,655	1,290,083	1,467,738	279,505	264,077	543,582	635,105	1,132,958	1,768,063	6,782	15,594	22,376	6,444	5,282	18	3,836,177
8月	179,918	1,291,518	1,471,436	282,189	267,110	549,299	639,438	1,134,499	1,773,937	6,733	15,504	22,237	6,357	5,198	18	3,851,252
9月	179,024	1,289,204	1,468,228	282,900	267,320	550,220	637,244	1,129,161	1,766,405	6,774	15,491	22,265	6,178	5,190	18	3,841,182
前年比	86.6%	97.7%	96.2%	99.0%	99.3%	99.1%	99.7%	98.3%	98.8%	98.6%	97.8%	98.1%	90.7%	43.5%	90.0%	97.6%

※総計には、ジャージー、乳用種、無角和種、黒毛和種×褐毛和種、和種間交雑種を含む

## 家畜改良事業団が2024年検定済種雄牛生産者感謝状贈呈式を開催

一般社家畜改良事業団(富田育稔理事長=写真前列右)は11月29日、本部会議室で「2024年検定済種雄牛生産者感謝状贈呈式」を開催した。贈呈式には2024年に選抜された検定済種雄牛のうち計画交配などにより作出した種雄牛5頭の生産者として、JP5H60136ピュアソウルビジョンDRウエルダ・生産者の丹治智寛氏(北海道)、P黒1158姫百合・生産者の前田哲也氏(北海道)、P黒1160信忠栄・生産者の佐々木健氏(秋田県)、P黒1163峰勝姫・生産者の(株)のぼ牧場(広島県)、P黒1178那奈雄・生産者の佐藤雅彦氏が招かれた。

式典の冒頭、主催者を代表して富田理事長は、「当団は昭和46年の創立以来、乳用牛と肉用牛の優良種雄牛の効率的な作出と、その精液や受精卵の配布などが国の畜産経営が発展できるよう努力し



てきた。こうした当団の取り組みの中でも優良種雄牛の作出については計画交配や調整交配の実施に当たり、生産者をはじめ、多くの関係者から協力を受けている。本日の表彰式は候補種雄牛を生産し、さらに後代検定で優秀な成績を取って選抜された種雄牛の生産者に感謝の気持ちを込めて開催している。今回

で36回目を迎え、乳用牛1頭、肉用牛4頭の生産者を表彰。飼料価格の高騰など経営環境が厳しくなる中、家畜改良が果たす役割はますます重要となる。生産者には今後とも優秀な種雄牛の生産に尽力してもらいたい」と生産者に謝辞を伝えた。続いて、来賓として独立行政法人家畜改良センターの入江正和理

事長が祝辞を述べた。

贈呈式は、わが国の乳用牛および肉用牛の改良をけん引する検定済種雄牛の生産に携わる生産者に対して心からの敬意と、後代検定事業への協力に対して深甚なる謝意を表し、出席された5組の生産者に富田理事長から感謝状と記念品が贈られた。

## 【12月の相場見通し】③国産豚部分肉、輸入豚肉、内臓肉

**【国産豚部分肉】** スノ物は徐々に緩む、バラ、ロイン系は一段高

【関東】年末商戦を迎える12月は、鍋物需要の増加などでバラやカタロースといったスライス系アイテムの引き合いがより強まることが予想される。加えて、イベントなどの機会も増えることから、ロイン系アイテムの荷動き良化にも期待がかかる。また、スノ物については、冬休みなどで学校給食向けの引き合いが止まり、荷動きはやや鈍るか。

一方、冷凍物については、今年は豚価の高値が継続し、例年に比べて凍結回しにするケースが少なかったため、在庫水準が低く、アイテムによっては需給が逼迫している。特にバラやカタロースに加え、ロイン系など中部位には品薄感がみられる。また、12月はスペアリブの荷動きも活発化しそうだ。

【関西】ここにきて気温が急激に低下してきたこともあり、鍋物に使うスライス材の需要は大きく伸長し、バラ、ロース、カタロースは一段高の展開。特にバラは焼き材にも幅広く使いやすい汎用性の高さから、引き合いは堅調で、品薄感は強い。

年末年始にかけては普段よりも国産がよく動くシーズンでもあり、これらの部位は当面ジリ高の展開が続くそう。一方、ウデやモモは、若干緩んでおり、弱含み。ただ、出荷頭数が夏場から大きく増加しなかったこともあり、各社の在庫水準はそれほど潤沢ではなく「少し下げればすぐに売れる」と卸筋は強気であり、下値は限定的か。ヒレはもちあい。

**【輸入豚肉】** Cベリー中心に堅調、Fは需給がやや締まる

輸入チルドポークは、為替の円安が継続している中、港湾ストの影響などもあり、先々の需給環境には

不透明感がみられる。一方、引き続き需要については堅調であり、鍋物需要の増加もあり、ベリーやロイン系のアイテムなどを中心に引き合いがみられる。12月も需要は底堅く、供給状況次第では需給がタイトになるケースもあるか。

輸入フローズンポークは、ここへきてようやく重たかった在庫の調整が進んできており、一時期に比べると全体的に需給は締まってきつつある。チルドポークや逼迫する国産冷凍物からの代替需要などもみられる中、引き合いも増えており、12月もベリーなどのアイテムを中心に堅調な荷動きが続くか。

**【輸入内臓】** 白物の荷動き本格化、焼き材も引き合い堅調

11月中旬まで気温が高く暖かい日が続いていたことから、鍋物需要の動き出しは例年よりやや遅れていた。しかし、下旬以降、急激に寒さが強まり、白物の動きは良化。本格的な白物の需要期に入ってきてラージ、スモール共に強含みの展開。一方、焼き材は在庫整理の動きが一巡し、ある程度値段がこなれてきたこともあり、やや上向き。

歳末の需要期に向けて「厚切りタン」や「厚切りハラミ」などのアイテムの販促を考える店舗も多く、タンやアウトサイドスカートの引き合いも少しずつ増えてきた。コロナ前のような大人数での忘年会需要などは減少しても、外食需要自体は堅調であり、一定の引き合いは見込めそう。

年明けも、為替レートが円安水準で推移していることや、米国産の供給量もタイトであることから、次の入船価格も高止まりが見込まれており、大きく緩むことは考えにくい。

## マルイチ産商が共進会および見本市を開催、県知事賞は大国屋が購買

信州牛生産販売協議会(根橋博志会長=写真中央)は11月23、24日の2日間、マルイチ産商畜産事業部、大信畜産工業(株)協賛による、「第39回信州牛生産販売協議会共進会せり市」および「第91回りんご和牛信州牛見本市展示即売会」を長野県中野市の大信畜産工業中野本社工場で開催した。

りんごで育てた銘柄牛として定着した「信州牛」は、昭和40年代から地元生産者、大信畜産工業とマルイチ産商がブランド化を図り、昭和45年に商標登録して以来、マルイチ産商の一貫システムにより生産されている。平成22年には名称を「りんご和牛信州牛」に刷新し、品質はもとより、安全対策でも国内トップクラスにふさわしい銘柄牛として全国的に知名度を高めている。

今回の出品牛は長野県おいしい牛肉認定事業による「信州プレミアム牛肉」を含む黒毛和種52頭(共進会33頭、見本市19頭)。39回目を迎えた共進会は、去勢23頭、雌10頭が出品され、信州牛の評価基準に基づく厳正な審査が行われた。審査の結果、共進会の長野県知事賞は荒井伸吾さんの出品牛(去



勢、枝肉重量593kg、オレイン酸計測値57.6%)が受賞し、競りではキロ当たり5010円で(株)大国屋(写真左が山本孝男社長、右が同社クリエイティブ事業部準備室の山本純也室長)が購買。中野市長賞の高井富士畜産出品牛(去勢、529kg、52.4%)は、2810円で(株)プロミットが購買した。

一方、見本市の金賞はグリーンフィールド関牧場の出品牛(去勢、枝肉重量541kg、55.7%)が受賞、恒例のくじ引きにより、3250円で肉のわたなべが購買した。

## CAB協会、「いきなり！ステーキ」とのコラボイベント開催

CERTIFIED ANGUS BEEF協会(東京都港区、以下CAB)は11月29日、(株)ペッパーフードサービスが運営する「いきなり！ステーキ」と「いい肉の日」にちなんだコラボレーションイベントを池袋のゲームセンターGiGO総本店で開催した。

会場1階の入り口付近に設置されたクレーンゲームには、この日のために作られたCAB完全オリジナルのアンガスビーフのぬいぐるみ限定100個が景品として並べられ、来場者は「#認定アンガスビーフ」「#いい肉の日はいきステ」の2つのワードをSNSに投稿すると無料で挑戦できる。獲得できるまで何度でも挑戦できるということで、来場者は皆、ぬいぐるみを獲得し、笑顔を見せていた。また、会場にはCABマスコットキャラクターの「Certified Clydeちゃん」が登場し、SNS投稿用に記念撮影をするなど来場者と触れ合った。

CABのジェフリー・ファン・ジャパンディレクターは「一般の消費者の皆さんに向けた体験型のイベントは、今回が初。いきなりステーキでは、1番人気の『ワイルドステーキ』としてCABを使用させていただいており、若年層へ向けての認知度向上を図った今企画で知らなかった人はもちろん、すでに食べたことのある人にも認定アンガスビーフの存在を広める足がかりとしたい」と狙いを説明。

また、ペッパーフードサービス経営企画室の相澤由紀係長は「店舗ではCABのロゴや証書を掲示するなどし、おいしさや認知度の向上に努めてはいるが、値段で選ばれてしまうことが多い。今回のように体験し楽しめることとひもづけ、認定アンガスビーフを知ってもらい、お店に足を運んでいただき、おいしさに気づいてもらうきっかけづくりになればうれしい」と述べた。

## 畜産物輸出促進協、食肉加工品輸出協が“日本の食品”輸出 EXPO 出展 14社の食肉加工品を紹介し試食提供、会場内でセミナーも実施

日本畜産物輸出促進協会、食肉加工品輸出協議会は11月27～29日にかけて、幕張メッセで開催された「第9回“日本の食品”輸出EXPO」に出展。ブースでは、伊藤ハム米久ホールディングス(和牛ローストビーフ、グランドアルトバイエルン)、銀河フーズ(雪っこサラミ、熟成あらびきソーセージなど)、全農グループ(和牛ローストビーフ、国産豚味噌漬け)、信州ハム(爽やか信州軽井沢シリーズ)、スターゼン(和牛ローストビーフ、我家のビストロ旨激辛チョリソーなど)、大和食品(レアチャーシュー、ローストビーフ)、滝沢ハム(和牛ローストビーフ、黒と黒と黒のハンバーグ)、タケダハム(無塩せきあらびきウインナー)、日本ハム(シャウエッセン)、林兼産業(霧島黒豚のローストポーク、煮込みハンバーグなど)、フードリエ(ほぐしチキン)、プリマハム(ストックディッシュ)、丸大食品(燻製屋、プロテインチキンスティック)、ヤガイ(おやつカルパス)の合計14社がすでに輸出展開している商品を含め、自社の食肉加工品を展示。さらに連日各商品を試食提供し、実際に試食した来場者へのアンケートも実施した。

また、会期中には「日本産食肉加工品へのいざない」と題し、会場内の最新トレンドセミナーで日本ハム・ソーセージ工業協同組合の強谷雅彦専務理事(写真)が講演を行った。強谷専務は「日本のロースハムはキメ細かく、しっとりとして軟らかいのが特長。また、ウインナーソーセージは原料となる豚肉を粗びきにしたものが主流であり、パリッとした歯応えとジューシーさが特長だ。ローストビーフ、ポーク、焼き豚などはいずれもしっとりして肉のうまみを感じられ、外食や一般消費者向けにさまざまなブランドが製品化されている。さらに今や日本で定番の人気商品となったサラダチキン、豚の角煮、ハンバーグ、牛丼の具、カレールーなどのレトルト食品の種類も豊富だ」と紹介した。さらに「日本の食肉加工業では原材料の入荷から製造・加工を経て商品の出荷に至るまでHACCPによる衛生管理が義務付けられ、高度な衛生水準が保たれている。また、業界としてSDGsにもしっかりと取り組んでいる。さまざまな食肉加工品を楽しみながら食べていただくことで、人の体を構



成する大切な栄養素であるタンパク質を子供から高齢者まで手軽に摂取可能だ。加えて減塩商品やアレルギー対応商品など、さまざまなバリエーションがある」と説明。続いて今回出展した14社の代表がそれぞれ自社の概要や展示製品についてPRした。

強谷専務は取材に対して「国内の食肉加工品輸出認定施設は限られており、要項基準をクリアすることは施設改修なども含めてハードルは高い。現状ではまだほとんど実績がない中で投資などの判断を特に中小規模の事業者を求めることは難しい。そうした中で新たな市場に対する可能性を探ることも含め、会員をサポートしていきたい」と述べ、会期前には海外から4社のディストリビューターを招へいし、会員企業との意見交換会を初めて実施したことも明かした。

## 京都で食育イベント、全肉連と京都府肉連が競馬場と農林フェスで消費PR

全国食肉事業協同組合連合会、京都府食肉事業協同組合連合会は11月30日～12月1日の2日間、京都市伏見区の京都競馬場で食育や食肉消費活性化を図るためのイベントを実施した。会場では①クイズラリー(1日4回×2日間)②お肉の部位とおすすめ料理の絵あわせゲーム(1日300人×2日間)③パネル展示や冊子の配布などを行った。

①は合計1千円以上の勝馬投票券かUMACA投票をした来場者がクイズに解答し、抽選で黒毛和牛すき焼き用(1万円相当)、京都牛カレー、のむヨーグルトなどが当たるもの。1日4回実施された。②は合計100円以上の勝馬投票券か500円以上のUMACA投票をした来場者が、壁面に掲げられた肉の部位とそれに合う料理のパズルを完成させるもの。③は「お肉が食肉にとどくまで」のパネルで、家畜が出荷され市場でのと畜・解体を経て精肉販売されるまでの一連の工程や安全性確保のための取り組み、購入の際のポイント、食肉の上手な保存方法などについて解説。併せて食育関連の小冊子が配布された。

開催2日目には中京競馬場でG1チャンピオンズ

カップが開催されたこともあり、京都競馬場にも大勢の来場者があつたほか、両日とも天候にも恵まれ、クイズラリー開催前から多くの来場者が行列を作った。熱心にパネルを見学する様子もみられ、普段接することがない食肉流通の世界に関心を向ける来場者も多くみられた。今回は食育をメインテーマに実施されたイベントだが、全肉連では伸び悩む和牛消費を活気付ける意味でもクイズの景品に和牛を用意。また、テント前にはスマートフォンでQRコードを読み取ると、カメラの画面に和牛が現れ一緒に写真が撮れるサービスを導入し終始にぎわいをみせた。

また、京都府肉連は同期間、同区の京都府総合見本市会館(京都パルスプラザ)で開催された京都府農林水産フェスティバル2024にブースを出展。府内の農産物や畜産物、水産物の展示や販売などが行われた会場で、アンケートに回答した来場者に抽選で京都牛カレーをプレゼントする催しを実施したほか、パネル展示や小冊子の配布も行った。こちらも開始前から会場外で入場制限がかかるほどの盛況ぶりだった。

## 神奈川県業務卸が臨時総会、HACCPシステム検査学ぶ

神奈川県食肉業務用卸協同組合(井上恒次理事長)は11月29日、横浜市の横浜ロイヤルパークで第1部「食肉流通HACCPステップアップ講習会」、第2部臨時総会を開催した。

冒頭、井上理事長が「来年度の中学校給食参入に際し、HACCP、衛生面にどこまでが求められるかを学ぶため、横浜市食品衛生コンサルタント協会の露崎隆司会長を講師にお招きした。横浜市衛生局に勤務され、横浜市場の衛生検査所の所長も務められた。現場にも行政にも詳しく、学ぶことが多いと思う」とあいさつ。

露崎氏は「横浜市は2026年度から中学校で全員給食が始まる。これまで“ハマ弁”があり、希望者に提供していたが、6事業者がデリバリー方式により、横浜市全体、約8万1千食を一斉に提供することにな

る。これまで食材については各給食業者が調達していたが、納入業者や食品の選定は、よこはま学校食育財団が決定、一括調達することになる。関係する中学校給食の衛生管理基準については、従来とそれほど大きく変わっていないが、財団は食品納入業者に対し、検便の実施、衛生環境の整備など、自主的な衛生管理体制の確立や、生産履歴の提出・保管等求めるとともに、衛生管理状況の確認を行うとしている」と説明。また、審査に必要な衛生に関わる書類や審査基準、食品衛生監視票がHACCP導入に伴い変更された点などを説明した。

第2部臨時総会では、定款変更など上程全議案が承認された。終了後は、村井洋介副理事長が乾杯の音頭を取り懇親に移った。

## 日本食鳥協会関西支部、大阪食鳥会館で講習会、情報交換会開く

日本食鳥協会関西支部(辻貴博支部長)は11月28日、大阪市此花区の食鳥会館で、令和6年度緊急時鶏肉処理体制整備等対策事業地域検討会講演および11月情報交換会を開催した。会の冒頭、辻支部長は「鳥インフルエンザが全国で散発しており、非常に心配している。生産、加工それぞれに気を引き締めて防疫に取り組んでいきたい。最近、食鳥相場が上昇してきており、産地としては”ほっと一息”という状況だ。ただ、生産から加工・販売のどの部門であつてもコストが非常に上がっている。最低賃金の上昇も著しく、運送料や燃料・資材など全てのものが値上がりしていることを踏まえても、引き続き相場が上がってほしいというのが本音である」とあいさつ。続いて、大阪公立大学の向本雅都教授による「HPAI防疫対策と処理場におけるカンピロバクター汚染低減について」の講義を行った。(講義内容は後日掲載)

講義を聴講したあとは、各部会が最近の生産・販売状況についての報告に移った。各部会の報告要旨は以下のとおり。

## 【生産加工部会】

「残暑は厳しかったが、おおむね順調。ムネ肉が少し小さい数値になっていたの、どのような原因であるかは検証していく」「鳥インフルエンザの影響で前年と比べて生産量が92~95%程度になった」「前年と比べると体重が悪化。一部患畜が発生したため。また、販売は順調だが、取引先のオーダーに完全に応えられず、迷惑をかけてしまっている」「グループ直営農場で鳥フルが発生し、殺処分自体は終わったが、発生鶏舎は鶏を入れられる状況ではなく、11月の稼働状況に一部、影響が出ている」

## 【荷受部会】

「なんでも売れてしまうという状況だが、特にササミは異常なほど引き合いが強くとB級品もA級品と同様の値段でのオファーがある」「ムネ肉は冷凍品も年末に向けて足りない状況。給食関係の鶏肉のメニュー割合が非常に増えており、来年度は鶏の切り身を加工する業者が少なくてさらに足りなくなる状況になる」



「冷蔵は、強いていえば肝が少し残る程度。冷凍品も、本社から在庫は全てひも付けされたという報告を受けており、余裕はない」「国産は、量販店からのオファーが強く、手羽モトを中心に不足感が強い」「輸入については以前に比べると少し値段は落ち着いたが、国産をメインで使いたいという量販店は継続して購買している状態」「輸入チキンの冷凍冷蔵の庫腹がやや過剰になっているという話もきく。もう少し価格帯が下がってくれば、国産相場にも影響が出る気はしている」「在庫が不足しており、段取りに苦労している。冷凍に関しても、(需要期に向けて凍結に回していた)夏場からの分を前倒しで使っている」「冬場なので焼き鳥商材の一部が少し動きが悪い」「ヤゲンなどについてはブラジル産の在庫が積み上がっている」「手羽モトは例年より少し弱い。手羽サキは好調。ササミは需要が高く品薄。グループ内でも追加があればほしいという話がかかるほど引き合いが強い」「自転車による飲酒運転の厳罰化の影響で顧客である焼き鳥店の売り上げに影響が出ている」「(11月末に東大阪に出店した)オーケーなどのディスカウントスーパーによる影響を懸念している」

## 【小売部会】

「9月、10月は残暑が厳しい中、加工品・半製品は好調であったが、単価が上がらず売り上げは苦戦した。弁当類は他店が大きく価格を上昇させて販売していることもあり、売り上げが確保できた。ただ、相場が高騰している状況では、売価は上げて販売せざるを得ない状況」

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 12月2日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 246頭	高値	5,061	3,167	2,536	-	-
		安値	2,453	2,188	2,225	-	-
		平均	3,313	2,529	2,329	2,164	-
		頭数	214	28	3	1	-
	雌 B 2頭	高値	3,780	-	-	-	-
		安値	2,211	-	-	-	-
		平均	2,858	-	-	-	-
		頭数	2	-	-	-	-
	去 A 80頭	高値	3,324	2,532	2,327	-	-
		安値	2,378	2,358	2,225	-	-
		平均	2,641	2,417	2,275	1,620	-
		頭数	63	11	5	1	-
去 B 1頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	1,204	-	
	頭数	-	-	-	1	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 17頭	平均	2,053	1,848	1,651	1,430	-
		頭数	1	5	8	3	-
	雌 C 2頭	平均	1,746	-	1,462	-	-
		頭数	1	-	1	-	-
	去 B 6頭	平均	-	1,774	1,638	-	-
		頭数	-	4	2	-	-
去 C 3頭	平均	-	-	1,593	1,317	-	
頭数	-	-	2	1	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 430	941 884	- 250.0	(競り)	(相対)	
				-	10	61

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	3,634	2,826	2,243	-	-
	B	-	-	1,089	1,198	-
和 去	A	2,634	2,370	2,196	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	877	778
	C	-	-	-	837	751
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,818	1,566	1,259	-
	C	-	-	1,421	1,353	-
交 去	B	-	1,700	1,574	1,428	-
	C	-	-	1,410	1,412	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	686	907	907	907	926
	安値	637	597	557	421	283
	平均	657	634	631	593	480
	頭数	( 3)	( 275)	( 309)	( 142)	( 155)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	603	602	570	-
	安値	-	603	579	568	-
	平均	-	603	587	569	-
	頭数	( -)	( 1)	( 5)	( 4)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 12月2日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,636	2,306	2,033	-	-
(頭数)	( 7)	( 10)	( 3)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( 1)
和 去 A	2,686	2,321	-	-	-
(頭数)	( 16)	( 9)	( -)	( -)	( -)
B	2,268	-	-	-	-
(頭数)	( 1)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,739	-	-	-
C	-	-	1,621	-	-
交雑去 B	1,934	1,838	1,684	1,470	-
C	-	1,728	1,620	1,558	-
豚	-	598	539	430	478

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	12月2日	11月29日	(12月累計)
豚	67,200	66,700	67,200
成牛計	5,720	4,930	5,720
和牛雌	1,190	980	1,190
和牛去勢	2,060	1,420	2,060
乳牛雌	300	870	300
乳牛去勢	620	430	620
交雑雌	650	640	650
交雑去	900	590	900

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 12月2日

	1,494円	(前日 1,379円)
東京		
大阪	1,628円	(前日 1,387円)

[豚・全農建値] 12月2日

上	中	取引頭数	市況
625円	614円	1109頭	急伸

と畜 売買	牛	豚	牛概況	反発
	153頭	84頭	豚概況	反発
	97頭	227頭		

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 12月2日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	572 (572)	- (-)	5,589	-	もちあい
仙台 [中]	549 (545)	500 (491)	371	115	続伸
宇都宮 [地]	565 (557)	556 (529)	1,907	68	上伸
茨城 [地]	603 (575)	578 (559)	1,377	596	上伸
群馬 [地]	644 (586)	556 (481)	2,068	330	急続伸
さいたま [中]	634 (593)	626 (580)	260	259	急伸
東京 [中]	634 (591)	631 (575)	941	884	急伸
横浜 [中]	607 (571)	585 (550)	668	648	続伸
山梨 [地]	- (-)	- (-)	123	65	休市
浜松 [地]	583 (554)	529 (487)	266	40	上伸
名古屋 [中]	625 (594)	612 (555)	984	332	続伸
京都 [中]	585 (616)	575 (607)	99	96	もちあい
大阪 [中]	598 (554)	539 (501)	84	206	反発
神戸 [中]	- (552)	- (544)	156	-	上場なし
岡山 [地]	645 (622)	613 (619)	209	331	上伸
広島 [中]	576 (572)	543 (542)	184	133	もちあい
福岡 [中]	670 (607)	660 (595)	462	129	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。京都の前日は30日。

[日本食肉流通センター] 11月25日～12月1日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

[食鳥正肉日経相場] 11月29日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇首都圏 総重量 1,868,172 kg

◇東京 (7社)

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,116	1,164	1,221	1,173	86,967
うで	728	745	781	750	150,521
ロース	1,026	1,123	1,160	1,106	186,569
ばら	1,134	1,261	1,314	1,247	198,561
もも	721	756	795	760	230,162
ヒレ	1,112	1,156	1,446	1,237	11,772
セット	881	1,017	1,040	985	1,003,620

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	662	705	814	163
ムネ	366	398	496	142

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	675	738	1,010	8
ムネ	378	430	570	7

◇近畿圏 総重量 737,735 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,281	1,307	1,264	58,789
うで	702	737	810	744	113,251
ロース	1,058	1,172	1,242	1,159	111,396
ばら	1,183	1,245	1,350	1,254	132,641
もも	705	735	789	738	156,692
ヒレ	1,080	1,120	1,245	1,145	10,751
セット	869	971	1,056	969	154,215

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月29日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	932	603	550	600	650
安値	670	381	290	360	350
平均	729	411			

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

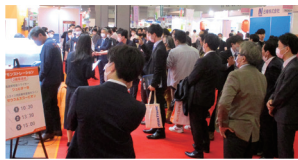
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクカット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995